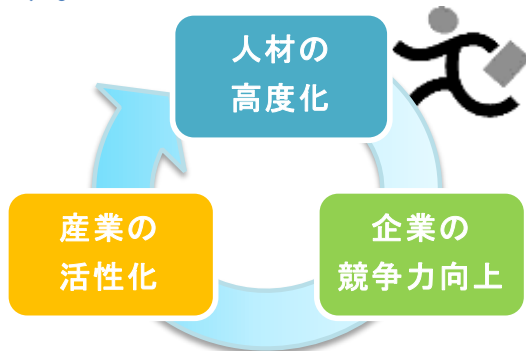


沖縄型産業中核人材育成事業

平成29年度予算額 1.8億円（新規）

背景・目的

- 沖縄県は、リーディング産業である観光業や情報通信産業を中心に好調に推移していますが、失業率は未だ国内一高く、労働生産性も全国平均の約7割にとどまっています。
- 今後、県経済の発展に向けては、リーディング産業の高度化・多様化を進めるとともに、ものづくりなど基盤産業の競争力も高め、付加価値の高いビジネスやサービスを生み出していくことが重要です。



- 本事業では企業の成長の源である“人材”に着目し、マネジメントスキルや将来の成長産業で専門技術をもつ人材など、沖縄の次なる成長を担う人材を育成し、県内産業の活性化につなげます。

事業概要

- 各産業界が主体となって、求められる人材像を検討し、必要な知識・スキルの習得に向けた人材育成プログラムを開発。県内企業の従業員等を対象に研修を実施。
- また、開発及び研修の実施に加えて、評価・改善まで一貫して行っていくことで、専門的な知識・スキルや研修ノウハウを蓄積し、継続的な人材育成が図られることを目指していきます。



期待される効果

- 沖縄県内の人材の底上げ・高度化
- 県内企業の競争力の強化、新たな企業進出を後押し
- 非正規雇用の多い県内の雇用環境の改善

観光競争力強化のための魅力的な景観創出

国道58号 電線共同溝(谷茶地区)

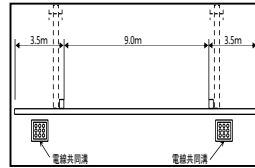
○事業区間: 沖縄県恩納村谷茶地内

○延長: 0.9km

○平成29年当初: 0.2億円

平成29年度事業内容

・調査設計、本体工事、連系管路工事、連係設備工事を推進。



国道331号 電線共同溝(久手堅地区)

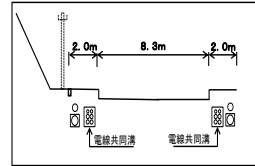
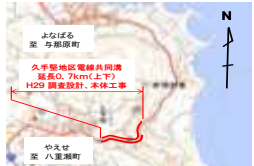
○事業区間: 沖縄県南城市久手堅～沖縄県南城市久手堅

○延長: 0.7km

○平成29年当初: 1.0億円

平成29年度事業内容

・調査設計、本体工事を推進。



景観に配慮するモデル箇所での緑化の試験施工

- 観光地周辺等、景観に配慮するモデル箇所の選定
- 周辺の景観、土地利用に配慮した植栽手法、樹種の選定
- モデル箇所における緑化の試験施工
- 試験施工結果の比較、課題の整理

凡例

- 観光地周辺モデル地区候補箇所
- 玄関口モデル地区候補箇所

良好な景観の持続可能な管理手法の検討

- 植栽部の雑草の繁茂抑制検討
- 植栽管理の効率化の検討
- 周辺住民や事業者を交えた植栽管理手法の検討



4. 有識者からのご意見

ご意見を頂いた有識者一覧

「沖縄観光ステップアップ戦略2017」策定に当たりご意見を頂いた有識者

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ・株式会社ジェイティービー | 池田 伸之 観光戦略担当部長 |
| ・Peach Aviation株式会社 | 井上 慎一 代表取締役CEO |
| ・敬愛大学 | 廻 洋子 教授 |
| ・一般社団法人沖縄県経営者協会 | 安里 昌利 会長 |
| ・沖縄県 | 嘉手苅 孝夫 文化観光スポーツ部長 |
| ・琉球大学 | 下地 芳郎 教授 |
| ・一般社団法人沖縄県レンタカー協会 | 白石 武博 会長 |
| ・一般財団法人沖縄コンベンションビューロー | 平良 朝敬 会長 |
| ・沖縄ツアーリスト株式会社 | 東 良和 会長 |

有識者からの主なご意見

1. 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」の各取組を進めるに当たり留意が必要なご意見

分類	意見概要
重点化アクション① 『新「大航海時代」の創出に向けた受入環境整備』に係るご意見	クルーズ船の2次交通は、目的地とセットで検討することが必要
	クルーズ船受け入れを優先するのではなく観光客の満足度等を優先し、また、地元への経済効果や地元住民の移動手段確保の観点にも配慮することが必要
	クルーズ船の2次交通として、自動運転を有効に活用できるのではないか
	宮古島等では急増する大型クルーズ船等の受け入れ対応として、一般車(運転者)を活用する方策について検討することが必要ではないか
重点化アクション② 『スポーツ・ヘルスケアを軸とした沖縄観光の新展開』に係るご意見	沖縄において、全国より高い目標値を設定し、スポーツを「産業」とすることが必要
	リハビリやリトリート(ヨガや呼吸法、食事などにより、体や精神のコンディションを整えること)等のヘルスケア産業の観点を入れ、トップアスリートだけではなく一般の方もターゲットとした要素を入れることが必要
	スポーツ関連以外も含めた沖縄観光のピーク時期と重ならないよう、ターゲットを検討することが必要
	スポーツ産業を活性化するには人材が重要であるため、スポーツ選手のOG・OB等の活動拠点を沖縄にするような取組が必要
重点化アクション③ 『沖縄観光の回遊性向上に向けた交通モードの多様化』に係るご意見	LCCを「空飛ぶ電車」の感覚(時間、料金)で活用することにより、「合宿」等のスポーツツーリズムを沖縄で展開することが可能
	小型機により自由に移動できるアイランドホッピングの運用形態が出来れば全国の先進事例となる
	新たな海上交通ルートの運航者として、既存事業者を活用できるのではないか
	海上交通の交通ルートを検討する場合、料金設定は陸上移動にかかる金額を考慮し設定することが必要
	C to Cの観点から、船舶、小型機等での移動先から各地へアクセスできる環境の整備が必要
	交通モードの多様化の中で自動運転を活用するという視点もあるのではないか
上記以外の取組に係るご意見	まずは、那覇～本部間の高速艇の過去の失敗事例の研究・検証が必要
	伝統芸能を観光資源としてもっと活用できないか
	観光関連のハード整備だけではなく、観光人材の確保をする必要がある
	本取組について、毎年度継続的にPDCAを実施すべきではないか

有識者からの主なご意見

2. 今後、観光振興策を検討するに当たり留意が必要なご意見

意見概要

- ・クルーズ船入港時の入管手続きにかかる時間は機会損失等に繋がるため、対策が必要
- ・那覇港のクルーズ船バースから県庁近くまで動く歩道を整備してはどうか。また、レンタカーを港で返却できるようにしてはどうか
- ・クルーズ船の歓迎イベントをコストをかけず行う方法を検討すべきではないか
- ・那覇空港の第二滑走路供用後、更なる離発着回数の増加やターミナルの拡充について検討する必要があるのではないか
- ・鉄軌道がない中では、バス路線の整理や公営のバス等を検討する必要があるのではないか
- ・観光関係の就業者が働きやすい環境(従業員向け託児所等)を整備したり、地位向上に努める必要がある
- ・OISTで行っている沖縄ならではの科学を生かした学びのエンタテイメント施設が考えられるのではないか
- ・観光客の出身国ごとの趣味趣向を踏まえ、高付加価値化の商品・サービス開発を進めるべきではないか

一般の方からの主なご意見

平成29年5月16日～6月14日の間、「沖縄観光ステップアップ戦略2017」に関する意見募集を行った結果、主に下記のご意見が提出された。

今後、観光振興を検討するに当たり、留意が必要。

意見概要

- ・離島に観光やビジネスに特化した専門学校等の誘致ができないか。
- ・離島への観光客呼び込みに一段と知恵出しが必要であると感じる。例えば、エアラインによる離島周遊のディスカウントチケットや、宿泊やオプションツアーのセット化、那覇から日帰りや1泊程度で十二分に足を伸ばせる周遊コースの設定が必要。
- ・沖縄奄美の世界自然遺産登録の後押しのために、沖縄・奄美間の周遊観光の促進は絶対的に必要です。
- ・台風対策のための宿泊先として、那覇空港近くに簡易宿泊ホテルを建設できないか。また、全天候に対応出来る観光施設の建設を建設できないか。
- ・統合型リゾート(IR)等の誘致が出来れば、沖縄への観光需要の更なる創出に繋がる。
- ・空港に隣接する小型船だまりを整備すれば、高速船等で直接本島近隣離島や本島中北部圏域にアクセスできるようになり、短時間で快適に移動できる。
- ・沖縄本島北部、沖縄本島周辺離島、宮古八重山地区の移動や観光商品として、ヘリコプターの活用はできないか。
- ・南大東島に高速船で行けるようにできないか。
- ・観光スポットを乗り降り自由に行き来できる「ヒップホップバス」の導入を検討すべき。
- ・モノレール路線拡大や長期的には鉄道など公共交通機関の確保、路面バスの充実化が必要不可欠。
- ・渋滞対策は喫緊の課題。陸橋や地下通路を増やし、歩行者が交通の妨げにならない都市計画を立てる事が重要。
- ・各地域ごとに観光大使やコンシェルジュを選出してはどうか。
- ・外国人観光客向けに、表示や標識の改善(多言語対応)また、時刻表の正確さ、運転手のサービス向上などが必要。
- ・沖縄観光をステップアップさせるためには自然災害に対して安全な観光地にすべき。観光は地震や津波などの危機管理までできて1セットだと考える。